

道徳分科会

研究仮説

道徳の授業を通して「考える 話す 聞く」態度を身に付けさせることにより、児童・生徒の言語能力を向上させる。

教員相互の授業研究（授業参観）により、指導技術や指導方法の改善が進む。

平成 27 年度の授業公開

6 月 11 日(開進三小)

9 月 17 日 (開進二小)

11 月 17 日 (開進三中)

道徳授業の進め方（校区共通理解）

「話すこと 聞くこと」を重視し、「深く考えさせる」ために発問の仕方を吟味する。

「話し合い活動」を取り入れる（グループワーク：ペアワークなど）。

資料の価値項目に合わせて「自分の振り返り」をさせる。

三校の児童・生徒の実態（道徳的課題）

二 小	三 小	三 中
何事にも前向きに取り組む姿が見られる。きまりを守る、挨拶をする大切さなどは理解していても態度、行動に表せない児童がいる。自信がないためか、自主性には欠ける。	明るく、素直な児童が多い。友達同士のトラブルは、相手の思いや立場を考えない言動によるものが多い。自分の思いを表現することに苦手意識をもつ児童も見られる。	挨拶を活発にする校風を受け継いでいるが、場に応じた礼儀や言葉遣いが身につけていない生徒もいる。明るく従順な生徒が多い反面、自主性や根気強さは欠ける。

28 年度に向けての授業改善（取り組み共通目標）

校区の児童生徒の実態に即して、内容項目の重点化を図った年間指導計画を作成する。

（「本時のねらい」については、各学校・各学年の段階に応じて設定する。）

「取り上げる資料について」の新しい試み

心に響く良質の資料であれば、小中 9 年間を通して同じ資料を扱うことも可能である。

（学校、学年、学級の実態に合わせて抽出してもよい）

↓

道徳分科会の教員が互いに授業参観して検証することが望ましい。

「道徳の教科化」に向けて（*現段階では未定）

< 2 4 の内容項目 > を 3 校で計画的に履修できるよう、配列するのが望ましい。

可能な範囲で三校で互いの年間指導計画を見ながら、いつ頃の項目を履修させるのが適当か話し合うことができるか。